

きく西に折れ、三ノ丸へと続く。

三ノ丸には、標高約400 mに位置し、上番所跡や足軽番所跡があり、それぞれに方形を呈する石列がある。また三ノ丸から登城道を隔てて第三平櫓跡が所在する。第三平櫓跡の北東部には幅約2 mの城外に抜ける道があるが、通常は路地門によって閉じられていたものと思われる。

さらに西へ10m程登ると登城道は、北へ大きく折れる。その折れたあたりに黒門跡があり切石の礎石が残っている。その西側に隣接して第四平櫓跡が所在する。登り口には3段の石段を持つ。黒門跡を抜けた登城道の南側には厩曲輪がある。標高は408 mで、約680 m²の広さを有する。厩曲輪の東端には、長さ約3 mの土塙がくの字状に現存している。この土塙は断面からみて、最低でも3回の修復が行われているものと思われる。

登城道の北側には御膳棚と呼ばれる曲輪がある。標高は413 mで、約300 m²の広さを有する。

黒門跡から20m程東へ登つたあたりに二ノ櫓門（鉄門）跡がありこれを抜けると二ノ丸へ通じる。二ノ丸には前述

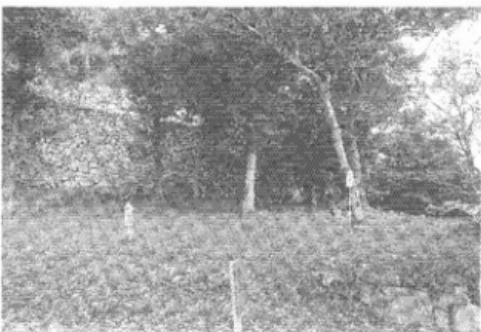


写真11 三の丸



写真12 黒門跡及び御膳棚



写真13 廐曲輪東隅土塙



写真14 鉄門跡



写真15 天守



写真16 捜手門跡

した南東隅の二ノ櫓門跡と南西隅にある雪隠跡といわれている2カ所の石組遺構がある

二ノ櫓門跡から25m程北に石段があり、本丸へ通じる。石段を登りつめたところの東側には第五平櫓跡があり、西側には第六平櫓跡がある。さらに、その西側には第七平櫓跡がある。それぞれ方形に開む石列を残している。

第七平櫓の北東には第八平櫓跡がある。この櫓と天守閣とは本来、渡り廊下でつながっていたものと考えられており、現在渡り廊下部分が天守閣への唯一の出入口となっている。天守閣は巨岩を天守台として利用した木造本瓦葺の2層2階建構造である。主軸はN-30°-Eをとる。閣内1階には御装束之間や全国でも珍しいとされる囲炉裏があり2階には宝剣を納めたとされる御社檀がある。

天守閣の北側には二重櫓がある。この二重櫓も天守閣同様天然の巨岩を利用して櫓台としており、同じく木造本瓦葺の2層2階建構造である。二重櫓は、北側と南側の両方に出入り口を持ち、北側は石段を経て後曲輪に、南側は本丸（天守閣裏側）に通じる。

本丸は前述した南側の石段

の他に、東側と北側に石段があり、東側の石段は二ノ丸から水手御門脇曲輪へ通じ、北側の石段はそのまま水の手御門脇曲輪へ通じる。

二ノ丸から水の手御門脇曲輪へ通じる道の途中には、搦手門跡がある。この門跡からは前述した大手門の西方10mほどの所から続く犬走りへ出ることができる。犬走りは、搦手門跡の西方約20mの所で、大手門跡への道と土橋方向へ向かう道とに別れている。

搦手門跡から北へ向かうと石段があり、その石段を上がったところが水の手御門脇曲輪である。標高は424 mである。水の手御門脇曲輪の東端には、第十平櫓跡があり4m×6mの広さを有する。その北側には水の手御門跡があり土橋の架かっている堀切へ、さらに相畠城戸跡から天神の丸跡へと通じる。また西端にも石段があり、それを登ったところが後曲輪である。標高は428 mで、北隅に第九平櫓跡がある。この第九平櫓跡が、小松山城跡の最北端にあたる。

なお、現在、備中松山城といえば、この小松山城跡を指す。

相畠城戸跡（第6図）

臥牛山の支峰天神の丸から南へ派生する尾根上に位置し、小松山城跡と天神の丸跡のほぼ中央にあたる。標高は約430 mで、7つの平坦面と腰曲輪状の小平坦面によって構成される。

現地は、天正3年（1575年）の松山合戦の時の古戦場である。

臥牛山は、ほとんどが国有林で公有地であるが、この相畠城戸跡の一部がわずかに民有地であり、昭和30年代まで人家があり畑地として利用されていた。

史跡内の明瞭な遺構としては、各平坦面の側面に築かれた石積みと、番所跡と考えられる石列や、井戸跡と考えられる石組遺構などが挙げられる。



写真17 二重橋及び水の手御門脇曲輪



写真18 後曲輪及び水の手御門脇曲輪

なお、相畠城戸跡の南方20mほどのあたりに、小松山城跡に関わると思われる堀切や井戸跡、側面に石積みを施した腰曲輪などがある。



写真19 天神の丸跡

天神の丸跡（第7図）

天神の丸跡は、臥牛山の最高峰天神の丸の山頂に位置し、その最高所の標高は約480 mである。80m×25mの広さを有し、その中央に径約20mの円形の高まりがある。この高まりが、かつての天守跡と考えられており、小松山城の天守同様、山頂に露呈した巨岩

を利用して天守台としている。その後、創建年代は不明であるが、この地には地名の由来ともなった「天神社」の御社壇が営まれており、現在は御社壇跡と手水鉢が残っている。なお、この天神の丸は、天正3年（1575年）の松山合戦の際に最初に陥落したところである。

また、天神の丸跡の道を挟んだ南側に「せいろうが壇」と呼ばれる曲輪跡がある。標高は460 mで、30m×20mの広さを有する。天神の丸跡に本丸が置かれていたときの、二ノ丸であったと考えられている。さらに、南の尾根上に3段の曲輪が築かれており、それぞれ標高は457 m・453 m・449 mである。その最上段は、三ノ丸と考えられている。



写真20 大松山城跡

大松山城跡（第8図）

この大松山城跡は、臥牛山で初めて築城されたといわれている。築城したのは有漢郷の地頭に補せられた秋庭三郎重信で、延応2年（1240年）のことであったと伝えられている。

大松山城跡は、当初城と言つて考えられているが、臥牛山の主峰大松山の山頂及び西に延びる尾根上に位置し、その最高所の標高は470 mである。6箇所の大きな平坦面によって構成

